

第10次中期経営計画「Foundation for Resilience-30」概要

今後のわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の感染症法の分類が5類と緩和されたことを受け、社会経済活動が平時に戻り、景気を持ち直しが期待される一方、ウクライナ情勢の長期化や急激な円安による資源価格・原材料価格等の上昇に拍車をかけ、金融不安の高まりなど引き続き国内経済や国民生活の改善に影響を及ぼすことが懸念され、先行き不透明な状態が継続するものと予想されます。

当社グループといたしましては、このような状況におきましても、「水を造り、熱を活かし、音を究め、よりよい環境をつくる」という当社の企業テーマを堅持し、環境保全・改善を目的とした製品販売を通じて社会の進歩に貢献することにより、将来にわたって持続可能な、変化に柔軟に対応できる組織を目指して参ります。

そのため、2023年4月からは、カーボンニュートラルとIoT社会への変貌を見据え、3か年計画として新中期経営計画「Foundation for Resilience-30 / FR-30」をスタートさせましたので、その骨子をお知らせいたします。

企 業 目 標： 「業務の変革により効率化を実現させ、ステークホルダーの期待に応える企業」

経 営 方 針： 「CS (顧客満足度)の向上」

経 営 目 標： 営業利益率5%以上

主 な 重 点 施 策：

I. 事業の効率化

- 1) 次世代情報基盤の構築
- 2) 空冷式熱交換器の設計効率向上
- 3) 蒸発濃縮装置の設計パターン化
- 4) 製造部門、製造管理部門の効率化

II. 事業の拡張

- 1) IoTを活用した客先支援システムの開発
- 2) 新型油水分離器の拡販
- 3) 液化水素バルブの販売開始
- 4) 放射空調システムの拡販によるCO₂の削減
- 5) CO₂固定化技術の開発

III. サステナビリティの強化

- 1) 経営指標の刷新
- 2) 働き方改革
- 3) 技術の伝承



以上